

# 日小獣学校飼育動物対策委員会の歩み

## 1. はじめに

昭和の終わりごろより全国各地において獣医師の個人的なボランティア活動として、子供たちの通う小学校などで飼育されている動物たちの傷や病気に対する治療が行われていました。しかし飼育環境等が改善されないため、その対策が必要となり、平成の時代を迎えたころより、獣医師会としての対応が必要になってきました。ヒューマン・アニマルボンド、人と動物の絆の大切さが重要であるといわれ始めていたころでした。

日本小動物獣医師会での学校飼育動物への取り組みは、平成元年 7 月に仙台で開催された年次大会の市民参加プログラムで、故中川美穂子先生が「子供の成長と動物たち」と題し地域での獣医師会ボランティア活動と社会の宝である次の世代を担う子供たちの成長に我々大人はどのようなメッセージを伝えなければならないかを獣医師の立場からご講演いただいたのが始まりでした。

その後、平成 5 年に獣医事部として市民公開講座を開催したのを皮切りに、平成 6 年より学校飼育動物対策委員会を設置し、平成 9 年までの活動は、家畜伝染病予防法に則り、保健衛生の指導を主にした活動をしていましたが、平成 10 年から、児童たちの心身に目を向けた関与の必要性を表に出した活動を行うこととなり、全国で様々な活動を 25 年間の長きに渡り行ってきました。平成が終わろうとし新しい年号の時代を迎えようとする今、日小獣の学校飼育動物に対する役割は終わろうとしています。獣医界では **One Health** の重要性が示され、新しい方向性が示唆されました。学校獣医師の実現に向かってステップアップする時期に来たとの考え方から、学校飼育動物の支援活動については、公益社団法人である日本獣医師会に委ねることがより実現に近づくとの考え方で、これからはより充実した成果が得られるのではないかと考えています。たくさんの獣医師の方々が誠心誠意努力された軌跡を残すために、ここに今までの活動をまとめ、すべての獣医師に感謝の気持ちを表したいと思います。

日本小動物獣医師会

学校飼育動物担当理事 宮川 保

## 2. 日小獣学校飼育動物対策委員会の軌跡

創立 40 周年記念誌資料編—3 追補版

動物や植物を飼い・育て、生き物への親しみと大切に育てることは、動物愛護を推進してゆく上での学校教育の役割、また、学校教育における動物愛護の役割も大きいものと考えられます。現在の管理された清浄な環境で、動物や生き物と切り離された生活を送る現在の子供達にとって学校での動物飼育体験が重要視されるようになりました。生き物を愛護する態度を育み、飼育管理の大変さ、難しさ、生命の尊重を学ぶという心の教育、子供達の社会性や、生きる充実感ばかりでなく生態の違い、住み分け、共生といった自然の仕組みを体験する貴重な機会と成るからです。

しかし、教科上定まった位置づけが無く教員養成課程において動物飼育に関する教育はほとんど行なわれておらず、現場の教師への研修も不十分で予算の裏付けも無く、動物たちが適正に飼育・管理がなされているとはいえず、動物愛護や動物福祉上の懸念が指摘されていました。

学校飼育動物と小動物開業獣医師との関わりは、個人的には子供達のお世話になっている幼稚園、小学校の傷病動物をボランティアで診察・治療することから始まってきたものと考えられ、本会が学校飼育動物と係わりだしたのは、平成6年度に獣医事部での事業として、文部省に学校飼育動物の指導方針について要請することから始まりました

そこには、『小学校における動物飼育を通し、生命の大切さと動物愛護の精神を育成するためのマニュアルを作成する。また、このため文部省、地区教育委員会、学校側と連絡協調を図る』とあります。

平成5年度（1993）総会資料の事業計画に初めて学校飼育動物に対する取り組みが明記され、年次大会（岐阜）において、市民公開講座（ヒューマンアニマルボンド）の中で講演が行われている。これが本会における学校飼育動物対策事業のはじまりである。

1993（平成5）年度

獣医事部事業計画

（6）総括的ヒューマンアニマルボンド活動の推進

⑤学校飼育動物の適正管理のため文部省に働きかけと地域活動の推進

93年次大会（岐阜）

○市民公開講座 —ヒューマンアニマルボンド—

学校飼育動物の正しい管理と接し方 講師 武田琉璃子（岐阜県開業）

1994（平成6）年度

学校飼育動物対策委員会の新設

## 1994（平成6）年度

学校飼育動物対策委員会(新設) 分掌事項：学校飼育動物の保健衛生等の指導

獣医事部長 八竹 昭夫 委員長 桑島 法昭  
委員 伊藤 豊 木村 芳之 中川 秀樹  
中嶋 正和 松本 光和

獣医事部に、学校飼育動物対策委員会が記載されており、各部事業推進事項では、「学校飼育動物の保健衛生等の指導への取り組み」と題し、既に地方獣医師会の中でも実際に取り組んでいるところもあるが、矢張り地方獣医師会が、地域の教育委員会と協調して取り組んでいくような手立てが無いと進まないと思われる、と記載されている。

そこで日小獣としては、文部省(初等中等教育局)と意見交換をしながら、これらの関係が地方へ具体的に広げられればと考え、平成6年度年次大会においても、これを獣医事部のテーマとしてシンポジウムを開催するなど、この事業拡大に努め、下記のようなシンポジウムを開催した。

テーマ：「学校教育現場における動物飼育のあり方」

文部省初等中等教育局 島野 道弘  
川崎市総合教育センター 塚田 庸子  
日本小動物獣医師会 八竹 昭夫、小暮 一雄

事業計画として、以下の運動推進を行なった。

- 1) 学校飼育動物の適正管理指導のための活動を全国各地に広げる。
- 2) 学校飼育動物への獣医師活動を具体化するため、人と動物の関わりと正しい飼育が進められるように、飼育動物の保健衛生の指導に努めるため全国各地にこの輪を広げる運動を推進する。
- 3) その為これに取り組む加入地方会の活動に、講師（文部省など）派遣を支援する事とし、学校飼育動物の対応への基本的方策のマニュアル作りを計画した。

## 1995（平成7）年度

獣医事部長 八竹 昭夫 委員長 八竹 昭夫 副委員長 中川 秀樹  
委員 伊藤 豊 木村 芳之 中嶋 正和 近藤 雅彦  
佐久間一也 竹原 和孝

### 1. 委員会の計画として

「学校獣医師制度と学校飼育動物に対処する活動を全国に拡大する」

- 1) 学校飼育動物への獣医師会活動を、地域獣医療活動の重要な一つとして位置付け、その推進に当たる。

- 2) 学校飼育動物への獣医師の活動を具体化するため、人と動物の関わりと正しい飼育を進められるよう、飼育動物の保健衛生指導にも力を尽くし、特に人畜共通感染症と家畜防疫からの面からも対応を働きかけると共に、つまるところ自然科学、生命科学の面からも学校現場に積極的に協力できるよう、全国各地にこの輪を広げる運動を推進する。

## 1996(平成 8) 年度

委員の伊藤豊、近藤雅彦委員が抜け、松本光和と山本精治が新委員に任命。

1. 平成 8 年 7 月 2 日、文部省初等中等教育局小学校課に島野教科調査官を訪ね、次のことを協議・理解し合った。
  - 1) 学校飼育動物を通じた文部省と日小獣との連携を深めるために何らかの制度化への地ならしの検討をすること
  - 2) 学校飼育動物への国からの予算は「地方交付金」という名目で一括組まれている。しかしこれは、一括包含されていて下部(市町村教育委員会・学校現場)から、都道府県教育委員会へ上がってきていないようなので、機会を見て都道府県に説明したい。
  - 3) 同じく、学校飼育動物への獣医師会対応普及が進まない原因に、都道府県教育委員会の中でも、事務官の無理解者が多いとする本会からの指摘に対し、島野教科調査官も理解を示し、前項と合わせて都道府県教育委員会に対して、理解を求める指導をすることを約束した。

学校飼育動物については文部省の教科改訂を機に本会と文部省初等中等教育局小学校課と意見交換を重ねると共に獣医師側が学校側と交流する上に整理しておかなければならない基本線を次のように整理すると共に、各県獣医師会の学校飼育動物対応の実態調査活動を行なった。

### 学校飼育動物への取り組み(基本姿勢)

日小獣学校飼育動物対策委員会

文部省は、教科の見直しによって生活科を新設して、その中で小学校において動物を飼育することを指導しています。

このことは学童たちが動植物を飼育することを通じて声明の大切さ、動植物を愛する心と、それによる人への思いやりの気持ちを育むことをねらいとしたものであります。

一方、私たち獣医師は、動物の健康を守り、それらの生息環境の保全を含めた飼育動物の保健衛生の指導を通じて人の保健衛生を護る。つまり公衆衛生を確保するための学識を提供し、協力をしていくことが社会的な任務であります。

この活動の中で獣医学識と教育方針とが重なりあう、自然科学、生命科学の分野の対応にあたって、特に次のことの配慮が求められると思います。

文部省の教科の中で教育指針として求められている生命、心への分野について、これは教育現場の任務であり、教師が学童に向かって直接関与する分野であります。

一方では生命科学を基盤とする獣医師の最も重要な分野でもあります。しかし小学校の教育の主体から見れば、この面では獣医師はあくまで「従」の側に位置するものです。

従って獣医師の専門学識を、教育現場に提供することがその任務となりましょう。

飼育動物の保健衛生については、動物の健康を護ることと共に、学童たちに些かでも健康に影響のある要素、危険性を指摘し、予防のための指導を行うことが求められます。同時に地域獣医療の立場から家畜伝染病予防法に規定されている法定家畜伝染病の防疫には積極的な対応が求められます。この面は学校飼育動物に対する獣医師の責務でもあります。

### 1997(平成9)年度

獣医事部長	八竹 昭夫	委員長	山本 精治	副委員長	中川 美穂子
委員	夏目 光一郎	矢部 真人	鈴木 哲也	竹原 和孝	
	佐久間 一也	宮川 保			

「本会の事業計画に則り、全国地方獣医師会及び関係機関の高揚を図り、各地における学校飼育動物への獣医師の係わりをさらに深め、学校獣医師制度の確立を目指す」

#### 【活動状況】

地方会の実態の把握を行うため、アンケート調査を継続して行う。

文部省他行政との折衝が必要、獣医師側の勉強も必要、公衆衛生、人畜共通伝染病を含めて学校との交渉も必要。

### 1998(平成10)年度

獣医事部長	新井 裕	委員長	山本 精治	副委員長	中川 美穂子
委員	夏目 光一郎	矢部 真人	鈴木 哲也	竹原 和孝	
	佐久間 一也	宮川 保			

1. 学校飼育動物に関するアンケートがスタートした。 会員が本会に何を求めているかを調べ、各地の実態を分析し、要望に応えるべく活動を行う。
2. 文部省との会合により、全国の状況の理解をしてもらい、有意義な意見の交換を行う事ができた。
3. 神奈川県および大阪府での講習会を主催。 また JSAVA ニュースに現状報告や講師派

遣の案内文を掲載し、各地から講師依頼があり、群馬県、千葉県、埼玉県、栃木県の各獣医師会主催の講習会に講師を派遣。

4. 中川副委員長が、平成 10 年 8 月 30 日付で、文部省委託団体の「日本初等理科教育研究会」の委員となり、教育現場における学校飼育動物に関する指導書作成に携わることになった。

## 1999 (平成 11) 年度

獣医事部長 新井 裕      委員長 山本 精治      副委員長 中川 美穂子  
委員 夏目 光一郎      矢部 真人      鈴木 哲也      竹原 和孝  
佐久間 一也      宮川 保

1. 今年度は千葉県獣医師会、北九州市獣医師会、大阪府獣医師会、静岡県獣医師会の協力により講習会を主催した。又、各地から講師依頼が多数あり、講師を派遣し各地の意識高揚や現状の底上げに協力できた。
2. 平成 14 年度から、小学校新学習指導要領解説生活科編の中に、「小動物の飼育に当たっては管理や繁殖、施設や環境などについて配慮する必要がある。その際、地域の獣医師と連携して、動物の適切な飼い方について指導を受けたり、常に健康な動物と関ることができるようになる必要がある」と記された事により、各地教育関係機関より獣医師への依頼が増えてくるものと思われる。
3. 日獣の学校飼育動物委員会に、山本、中川、矢部の 3 人が委嘱を受け委員として参加し、日小獣の活動及び考え方を参考意見として取り入れてもらった。

## 2000 (平成 12) 年度

役員改選による委員会メンバーの交代

獣医事部長 狩野 安正      委員長 山本 精治      副委員長 中川 美穂子  
委員 木村 芳之      矢部 真人      宮川 保      吉岡 宏

1. 12 年度、本会設立 30 周年記念年次大会が幕張メッセで開催される。  
2000 年年次大会(千葉)に先駆け、午前 9 時～午後 5 時まで学校飼育動物について、市民公開講座を開催した。  
午前：子供サミットと題し、千葉県内の小学校 3 校の児童の代表とそれぞれの担当教諭に参加してもらい「僕たちは飼育委員」のテーマで討論を行った。  
午後：市民サミット題し、「目、輝く子どもたちに」をテーマに前半を、全国で初めて学校獣医師制度を取り入れた小寺弘之群馬県知事をお招きし、基調講演を行った。

後半は、山本精治委員長がコーディネートをして、小寺知事と宮川八岐文部省視学官、山崎恵子ペット研究家、中川美穂子本委員会副委員長をパネラーとしてパネルディスカッションを行った。

2. 中川副委員長が獣医師としては初めて、文部科学省主催の「道徳教育推進事業発表全国大会」の講師として参加し、獣医師との連携の必要性を、教育関係者に更に認識をさせた。
3. 今年度は、京都府獣医師会、下関市開業獣医師会、新潟県獣医師会との協力により講習会が主催できた。また今年度も各地より講師派遣依頼が多数あり、各地方会及び関係者の意識高揚と現状底上げができた。

## 2001(平成13)年度

総務部長 山本 精治 委員長 山本 精治 副委員長 中川 美穂子  
委員 矢部 真人 宮川 保 吉岡 宏

1. 平成10年度から今年度まで、全国約70か所を訪問し講習会を行い、各地域の関係者の啓発を行った。
2. 今年度は大阪府獣医師会、徳島県獣医師会、高知県獣医師会との協力により講習会を開催した。
3. 平成13年10月5日に文部科学省初等中等教育局長を中川副委員長、宮川委員が訪問し本会の活動状況の報告を行うと共に、飼育マニュアルの全国の教育委員会への早期配布について、局長より新年度に配布するとの確約をもらうことができた。更には、文部科学省の日本学術会議が、学校での飼育に関する問題の重要性を認識され、教育関係と獣医関係の研究連絡委員会を新設し、情報交換を始めることになった。

その第1回の学校飼育動物勉強会は、平成14年2月25日に開催され、当委員会から中川、宮川委員が委嘱を受けた。今回委員として参加された方々は次の通り。

科学教育研連：鳩貝太郎（国立教育政策研究所）、武内一男（玉川大学）、鈴木哲也（筑波大学）、森田和良（筑波大学附属小学校）、岩室祥一（東邦大学）、

獣医学研連：唐木英明（東京大学）、佐々木伸雄（東京大学）、西原真杉（東京大学）、中川美穂子（日本小動物獣医師会）、宮川保（日本小動物獣医師会）、桑島功（千葉県獣医師会）、桑原保光（群馬県獣医師会）、大森伸男（日本獣医師会）

## 2002(平成14)年度

総務部長 山本 精治 委員長 山本 精治 副委員長 中川 美穂子  
委員 矢部 真人 宮川 保 吉岡 宏

1. 例年通り 30 数か所に講師を派遣し、地域の講習会に協力できた。今年度の本会主催の講習会は、東京都の市民公開講座に 220 名の参加を見た。また 12 月には沖縄県獣医師会の協力を得て、講習会を開催した。
2. 2002 年年年次学会(仙台)で東北初の市民公開講座を開催し、今後の東北地方での本事業の発展を願った。
3. 平成 14 年 6 月、遠山敦子文部科学大臣宛に、学校飼育動物に関する以下のような要望書を提出した。
  - (1) 児童の健全育成のため、学校に小動物の必要性について
  - (2) 自治体と地元獣医師会との連携の必要性について
  - (3) 飼育動物をレンタルする風潮について
  - (4) 教職課程の教育について
  - (5) 獣医師教育について
  - (6) 文部科学省発行の飼育マニュアルについて
4. 平成 15 年 2 月 28 日に開催された衆議院予算委員会第四分科会の中で、学校飼育動物に関する質疑において河村建夫文部科学副大臣は、『動物の人への影響を考慮して飼育を大事であると考えている。そのために教育指導要領の解説所に小動物飼育が書いてある。動物の選定、施設、管理への配慮、獣医師の指導の必要性、アレルギーの子への配慮も記述してある。また現実に学校に動物がいるのだから教員向けの研修を教育委員会主導で行うことが必要で、予算的な手当でも考える。教員養成課程に動物飼育の教育的意義と適切な飼育法を学ばせること。飼育が意義深く行われるためには、地域獣医師の支援体制を推進することに予算手当も必要だ。』と答弁された。

## 2003(平成 15) 年度

役員改選による委員会メンバーの交代

総務部長	山本 精治	委員長	矢部 真人	副委員長	中川 美穂子
委員	阿部 俊範	中島 直彦	宮川 保	小澤 明広	
	處 愛美				

1. 今年度は、兵庫県西宮市、2003 年年次学会(札幌)、愛知県名古屋市、奈良市にて本会主催の市民公開講座ならびに講習会を開催した。その他、約 40 回の講習会に文科省視学館等の講師派遣をした。
2. 平成 16 年 1 月に山口県で発生し、大分、京都と感染域が拡大していった「高病原性鳥インフルエンザ」は、マスコミの過剰な報道で恐怖心を植えつけられた大人達により、チャボ、鶏、小鳥を初めウサギなどの学校飼育動物達が、処分されたり、子供たちから隔



絶された所に追いやられてしまった。このような事態を防止するため、緊急対策マニュアルを提示し、利用していただいた。

## 2004(平成 16) 年度

総務部長 山本 精治 委員長 矢部 眞人 副委員長 中川 美穂子  
委員 阿部 俊範 中島 直彦 宮川 保 小澤 明広  
處 愛美

1. 「学校訪問飼育マニュアル」を作成し、9月に全会員に配布した。
2. 今年度は、北九州市、明石市、熊本市にて、獣医師、教育関係、一般市民を対象に本会主催の講習会を開催。各地 100 名を超える参加者があった。その他約 40 回の講習会に文科省視学官等の講師を派遣した。
3. 12 月には「高病原性鳥インフルエンザ」の発生を危惧し、全国の地方会長及び各県教育委員会に「鳥インフルエンザに対する対応について」の文書を発送して注意を喚起した。
4. 教育方と獣医師が集まって、学校飼育動物についてどのように関るべきかを考える『全国学校飼育動物研究会』が 8 月に発足。

当委員会もこの『全国学校飼育動物研究会』と連携し、次年度宇都宮で開催される日小獣年次学会で、市民公開講座を共催することを決定。

## 2005(平成 17) 年度

総務部長 山本 精治 委員長 矢部 眞人 副委員長 中川 美穂子  
委員 阿部 俊範 中島 直彦 宮川 保 小澤 明広  
處 愛美

1. 今年度は八戸市、石川県野々市町にて本会主催の講習会を行った。また『全国学校飼育動物研究会』と、宇都宮市での年次学会で、初めて市民公開講座を共催し、文科省、地域の教員、教育関係者の参加で、シンポジウムを開催。約 300 数十人の参加を見た。その他 20 数カ所に講師派遣を行った。
2. 各地からの講習会の依頼や講師派遣依頼に遅滞なく応えられるよう、また限られた人員に負担をかけすぎないように、講師養成を考え「講演用マニュアル」の作成を検討し、来年度に完成させ、各地に配布を考える。
3. 今年度も 12 月に、全国の会員所属の地方会長宛てならびに各県教育委員会に、「高病原性鳥インフルエンザ緊急対策マニュアル」を発送し、注意を喚起した。

## 2006(平成18)年度

委員会メンバーの交代と委員の増員。

総務部長	山本 精治	委員長	宮川 保	副委員長	中川 美穂子
委員	阿部 俊範	中島 直彦	杉本 寿彦	会亀 昭夫	
	和田 安弘	處 愛美	矢部 真人		

1. 8月の2006年年次学会(京都)において、本会主催で文科省教科調査官等を招き、市民公開講座を開催(参加者250名)。同時に全国から学校飼育動物担当者が集まり、「学校飼育動物担当者情報交換会」が初めて開催され、その情報交換会出席した獣医師に講演用マニュアルとCDを配布した。その他、福井市、鹿児島市、名古屋市において文科省教科調査官を招き、市民公開講座を開催し、また約10か所に講師派遣を行なった。
2. 今年度より講師育成を目的として、インストラクター養成事業を始め、各種講習会に委員を派遣した。
3. 「学校保健法」改正に伴う学校獣医師の制度について  
文科省が学校保健法の大改正行なう準備として学校健康・安全部会審議経過報告についてのパブリックコメントを募集した。しかし、これには学校獣医師について矢、学校飼育動物に関連することは全く触れられていないことから、子供たちの健康に係わる専門家としての「学校獣医師」の制度化を要望するため、文科省スポーツ・青少年局に提出した。

### 「学校保健法」改正に、「学校獣医師」の制度化を望む

日本小動物獣医師会は、北海道から沖縄まで全国各地で小動物動物病院を開業する獣医師約5000人が会員となり活動している国内最大の小動物獣医師の団体で、『社会の中の獣医療』をモットーに、獣医師が如何に社会に貢献していくかを実践しており、その中でも学校飼育動物事業は本会の大きな事業の一つでもあります。

子供たちに生物を愛し生命を尊重する態度を育てると共に、生命についての理解を深めさせるなどの効果が期待できるということから、全国の小学校の約90%で動物飼育が行なわれています。学校での動物飼育には、経験と知識が必要であり、学校指導要領の生活科解説に指摘されているように、専門家である獣医師の指導が不可欠と考えられています。平成17年に改正された「動物の愛護と管理に関する法律」の中の、「家庭動物等の使用及び管理に関する基準」第6. 学校、福祉施設等における飼養保管では、管理者は動物の飼養及び保管が、獣医師等十分な知識と飼養経験を有する者の指導の下行なわれるように努め、本基準の各項に基づき適正な動物飼育に努めることとされている。また学校保健法における学校環境衛生の基準・学校の清潔において、飼育動物の施設・設備に汚れがあったり、破損がある場合は清掃方法の改善や徹底を図ると共に、補

修する等の適切な処置を講じるようにするとされており、学校での飼育は教育的な配慮と共に模範的な飼育が望まれている。地球の温暖化等の自然環境の変化、生活様式の様式化、住環境の変化、ウイルスの進化等の様々な要因から人と動物の共通感染症が問題となっている。学校飼育動物で問題となる人と動物の共通感染症は、サルモネラ症、カンピロバクター症、オーム病、パストツレラ症、皮膚真菌症、鳥インフルエンザ、ニューカッスル病等多数ある。平成3年に行なわれた「新潟県におけるペットの人獣共通感染症に関する研究」において、学校で飼育される動物からオーム病等の比較的高い感染が認められ衛生管理の徹底の必要性が指摘された。学校という特殊な環境の中で、抵抗力の比較的低い児童が動物に接すること、毎年児童や指導する教師が入れ替わる等その特殊性を考慮した飼育が必要であり、出来る限り一貫した飼育管理が必要と思われる。

学校での動物飼育は、毎年変わる不特定の初心者による飼育と、飼育の経験と知識の不足による教師の指導、予算不足等による飼育環境の悪化から不衛生な環境での飼育が行なわれる可能性があるため、子供たちへの健康が心配される。子供の健康は学校保健法により、医師、歯科医師、薬剤師の学校三師が守っているが動物の健康の専門家は獣医師であり、人と動物の共通感染症等が危惧される現在、動物の正しい健康管理、動物の病気の予防、治療、飼育環境の改善、人と動物に係わる保健衛生指導等は獣医師が指導すべき立場であり、そのために獣医師を学校獣医師としておく「学校獣医師」を制度化すべきだと考えます。

## 2007(平成19)年度

総務部長	山本 精治	委員長	宮川 保	副委員長	中川 美穂子
委員	阿部 俊範	中島 直彦	杉本 寿彦	会 員	会 員 昭夫
	和田 安弘	處 愛美	矢部 真人		

1. 2007年年度学会（大阪）では唐木東大名誉教授を招き、基調講演をいただき市民公開講座を主催し、350名の参加者を見た。同時に学校飼育動物診療技術研修会「ここからはじまるモルモットの診療」（講師：林 典子先生）を開催し、担当獣医師のレベルアップを図った。その後、昨年同様、担当者情報交換会を開催し、講演用マニュアル、CDを配布した。
2. 今年度は新潟県長岡市、仙台市、長崎県諫早市において、文科省教科調査官はじめ、中川副委員長、宮川委員長を派遣し、講習会を主催した。その他全国4か所に中川副委員長を講師として派遣した。
3. インストラクター養成事業として、子供の教育における動物の役割、IAHAIO 東京大会、全国学校飼育動物研究大会に委員を派遣し、研修を行った。

## 2008(平成 20) 年度

総務部長 山本 精治

委員長 宮川 保 副委員長 中川 美穂子

委員 阿部 俊範 中島 直彦 杉本 寿彦 会亀 昭夫

和田 安弘 處 愛美 矢部 真人

1. 2008 年年次学会（東京）では、「言葉や活動をゆたかにする飼育体験」をテーマに、鳩貝太郎先生、汐見稔幸先生をお招きし、市民公開講座を開催（350 名の参加者）。同時に学校飼育動物診療技術研修会「うさぎの診療」（講師：霍野晋吉先生）を開催し、担当獣医師のレベルアップを試みた。また担当者情報交換会を開催し、終了後、担当者講演用マニュアルと CD を配布した。
2. 今年度も名古屋市、宇都宮市、高崎市で島野道弘先生（文教大学教授）、林 典子先生（ハロー動物病院院長）による、市民公開講座、獣医師向け講習会を主催した。また全国 8 か所に講師として、中川副委員長、處委員を派遣した。
3. 各地方会の学校飼育動物支援事業に関する取り組みについて把握する必要があるため、地方獣医師会へのアンケート調査を実施した。
4. インストラクター養成事業として、宇都宮での市民公開講座、全国学校飼育動物研究会へ委員を派遣し、研修を行った。



## 2009(平成 21) 年度

本委員会は組織改編により、総務部から事業部に移動。

事業部長 宮川 保      委員長 處 愛美      副委員長 杉本 寿彦  
委員 阿部 俊範      中島 直彦      大門由美子      会亀 昭夫  
和田 安弘

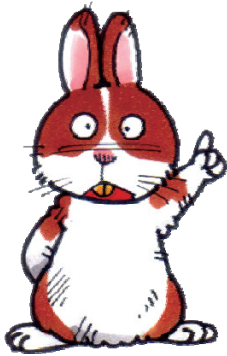
本委員会事業活動開始以来、副委員長として率先活動された中川美穂子先生は学術顧問としてご指導いただくことになった。

1. 2009 年年次学会(福岡)において、「学校飼育における動物飼育の意義と獣医師の役割」をテーマに文科省田村教科調査官、唐木東大名誉教授、處委員長を講師として市民公開講座を主催し、100 名の参加者を見た。同時に学校飼育動物診療技術研修会「小鳥の臨床」(講師：霍野晋吉先生)を開催。また担当者情報交換会を開催し、終了後、担当者講演用マニュアルと CD を配布した。
2. 今年度も大阪市、沖縄浦添市にて田村文科省教科調査官、宮川部長、清水かおり大阪府獣学校飼育委員、林 典子先生、處委員長をお招きし、市民公開講座及び獣医師向け講習会を主催した。また横浜、大阪、沖縄に講師派遣を行った。
3. 昨年同様、地方会の取り組み方を把握するため、アンケート調査を行った。
4. インストラクター養成事業として、全国学校飼育動物研究会、本会主催の講習会へ委員を派遣し、研修会開催を行った。



2010(平成 22) 年度

事業部長 宮川 保      委員長 處 愛美      副委員長 杉本 寿彦  
委員 阿部 俊範      中島 直彦      大門由美子      会亀 昭夫  
和田 安弘



日小獣の学校飼育動物への取り組みを周知すると共に子供達の学校飼育動物への関心を高める目的で小学校に配布する壁新聞「がっこう動物新聞」を創刊し年 2 回発行をした。

1. 学校動物支援事業の取り組みの現状と今後の課題の把握のために地方会へのアンケート調査を行った。
2. 御殿山ガーデンホテルラフォーレ東京で行われた日本小動物獣医師会年次大会において次の事業を行った。
  - ア) 「学校動物の継続飼育～意義と獣医師の支援の在り方～」をテーマに市民公開講座を開催した。
    - ・ 講演、演題Ⅰ 「生活科・総合的な学習の時間における動物飼育の充実－獣医師との連携を視野に入れて」  
講師：田村 学 文部科学省初等中等教育局教科調査官
    - 演題Ⅱ 「学校飼育動物と日本小動物獣医師会」  
講師：阿部 俊範 日小獣学校飼育動物対策委員
    - 演題Ⅲ 「『かかわり』を通して育む『生命』概念」  
講師：日置 光久 文部科学省初等中等局視学官
    - 演題Ⅳ 「獣医師の支援で衛生不安を回避して、負担の少ない楽しい飼育活動」  
講師：中川 美穂子 日小獣学術顧問  
全国学校飼育動物研究会事務局長
  - ・ 総合討論
  - ・ 参加者：47名
- イ) 御殿山ガーデンホテル長者丸において学校飼育動物に係わる獣医師の臨床技術の向上のために林 典子先生（ハロー動物病院院長）による「モルモットの臨床、問題点と対処法」技術講習会を行った
- ウ) 学校飼育動物担当者情報交換会

各地における学校飼育動物活動報告が行われた

また講演用マニュアル・CDを配布

3. 学校飼育動物講習会へ講師派遣を行った。

ア) 第1回学校飼育動物講習会

長野県動物愛護センター 塩尻総合文化センターにおいて宮川事業部長を講師に派遣し学校飼育動物講習会を開催した。

イ) 第2回学校飼育動物講習会

山口県獣医師会館において處学校飼育動物対策委員長を講師に派遣し学校飼育動物講習会を開催した。

4. インストラクター養成事業を行った。

本年度は自費による参加となり、委員会からの派遣はなかった。主な参加は次の通り

ア) 麻布大学で開催された 動物愛護教育研修会に處、杉本委員が参加した。

イ) (社) 日本獣医師会・(社) 岐阜県獣医師会・全国学校飼育動物研究会合同市民公開講座兼第13回全国学校飼育動物研究大会に宮川部長、處、杉本、阿部、中島、大門各委員が参加した

5. 壁新聞 (がっこう動物新聞) を発行した。

創刊号 6月発行 8 地方会 4900 部 利用いただいた。

第2号 2月発行



2011(平成23)年度

事業部長 宮川 保      委員長 處 愛美      副委員長 杉本 寿彦  
委員 中島 直彦 大門 由美子

3月11日に発生した東日本大震災により会員および地方獣医師会の受けた被害は甚大であった。これにより年次大会学会は中止となった。

### 1. 日小獣主催・学校飼育動物講習会

香川県獣医畜産会館において

関一弥先生（北九州市獣医師会理事 学校飼育動物委員長）を講師に招き

「北九州市獣医師会の学校動物飼育支援事業～活動開始時の問題点について～」

處 愛美 本委員会委員長を講師として「学校での動物飼育と獣医師の役割」

をテーマに講演を行った。

### 2. インストラクター養成事業を行った

本年度は自費による参加となり、委員会からの派遣はなかった。主な参加は次の通り

（社）日本獣医師会・（社）北海道獣医師会・全国学校飼育動物研究会合同市民公開講座兼第14回全国学校飼育動物研究大会

参加者宮川部長、處、杉本、大門各委員

### 3. 壁新聞の発行

第3号 9月発行 7地方会 4840部 利用いただいた。

第4号 1月発行



## 2012(平成24)年度

事業部長 宮川 保 委員長 處 愛美  
委員 中島 直彦 大門 由美子

副委員長 杉本 寿彦



1. 日小獣主催・学校飼育動物講習会

福井県アオッサ 研修室607において

獣医師の学校飼育動物への診療技術向上のため神奈川県開業霍野 晋吉先生を講師に招き「モルモット、ハムスターの臨床」の講演を行った。

また處 愛美 本委員会委員長を講師として「学校での動物飼育と獣医師の役割」をテーマに講演を行った。



2. インストラクター養成事業

本年度は自費による参加となり、委員会からの派遣はなかった。主な参加は次の通り

全国学校飼育動物研究会 参加者 宮川部長 處、杉本、中島、大門各委員

日本獣医師会学会・年次大会 市民公開シンポジウム 参加者 宮川部長 處、杉本、中島、大門各委員

3. 壁新聞の発行

「がっこう動物新聞」

第5号 9月発行 8 地方会 4940 部 利用いただいた。

第6号 1月発行



2013 (平成 25) 年度

事業部長 宮川 保 委員長 處 愛美 副委員長 杉本 寿彦  
委員 中島 直彦 大門 由美子

1. 委員会の開催。事業部合同委員会が東京グランドホテルおよび本会会議室にて行われた。当委員会は處先生を委員長、杉本先生を副委員長に選出。がっこう動物新聞（第7号及び8号9）の内容などの発行計画、講習会の開催について協議した。また、来年2月の日獣の獣医学術大会年次学会（千葉県）において配布するCDについても検討した。
2. 全国学校飼育動物研究大会が東京大学一条ホールにて開催され、参加協力した。
3. 富山観光ホテルに於いて公社）富山県獣医師会と共催で講習会を開催した。「子ども達の未来につながる講習会」と題して、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官（当時）の田村学先生と、本会の学校飼育動物対策委員会委員長の處愛美先生が講師として講演された。田村先生は「これからの学校教育と動物飼育」と題して、今回改訂され施行される学習指導要領の中での体験活動の価値に注目して、生活科や総合的な学習の時間での動物との関わりの重要性を説かれた。處先生は「学校飼育動物と獣医師会の支援活動」と題し、福岡県の実情を示しながら、獣医師が学校へ関わるきっかけやその意味、教育行政と獣医師会の連携の様子を解説された。また、実際に小学校で子ども達へ示すスライドも紹介され、ウサギの飼育の全体像をわかりやすく伝えながら、子どもの興味を引き出し、楽しい印象を与えるようになっている。フロアからの質問には、飼育に適した動物種は何か、飼育支援はボランティアでやるのが理想なのか、などの初期の素朴な疑問や、いじめと動物飼育の関係を問うものもあり、獣医師会内あるいは獣医師間での十分な協議と関係機関との連携が期待される印象を持った。
4. 当日、本会の委員会も同時に開催した。来年2月に配布予定のCDの内容の確認（学校での動物飼育にかかわる法令：教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領、動物の愛護及び管理に関する法律。学校保健安全法、について）の確認をした。
5. 公社）日本獣医師会学術学会年次大会の学校動物飼育支援対策検討委員会公開型拡大会議に参加協力した。終了時に作成したCDを配布した。（拡大会議においては、CDに入っていなかった家家畜伝染病予防法についての質問がでていた）
6. 本会事務局にて委員会開催。平成25年度事業報告、26年度の計画案予算案、がっこう動物新聞9号（10号についても）の内容と発行計画、来年度の日獣学術学会年次大会（岡山）への協力、などについて検討した。



## 2014（平成26）年度

事業部長 宮川 保      委員長 處 愛美      副委員長 杉本 寿彦  
委員 中島 直彦      大門 由美子

1. 本会事務局にて委員会開催。がっこう動物新聞については9号までが日小獣の単独発行で10号から日獣との合同の発行になる。それに伴って新聞の内容の検討を行う。また、利用促進や地方会での配布方法なども検討。今年度の講習会については、沖縄県獣医師会との共催で開催し、講師は本会事業部長の宮川先生と三輪先生に依頼することを決定。
2. 全国学校飼育動物研究大会への参加協力
3. 沖縄県動物愛護センターにおいて講習会を開催。学校飼育動物支援の方策として、本会の宮川先生が「学校での動物飼育と獣医師の役割」と題して講演された。改訂された学習指導要領とそれを取り巻く社会情勢を踏まえて、動物飼育の必要性と獣医師の役割について具体例を挙げながら解説された。なぜ効果が上がりにくいかなどについて、踏み込んだ見解が示された。また、獣医師が学校へ入るきっかけ作りの方法やその後の方向性など具体的に話された。みわエキゾチック動物病院院長で東京大学附属動物医療センターの三輪恭嗣先生は「ウサギの臨床～これだけは知っておこう～」と題して現在小学校で多く飼育されているウサギについて講演された。ウサギの基礎的から主だった疾病、その治療までをわかりやすく講演された。
4. 沖縄県那覇市での講習会当日に、本会学校飼育動物対策委員会も開催された。がっこう動物新聞の共同発行1号のゲラを確認し、共同発行2号からの内容について検討した。また利用促進のための広報など検討した。来年2月14日からの日獣学会年次大会（岡山県）への協力も確認した。

5. 岡山県岡山市で開催された(公社)日本獣医師会学術学会年次大会において、委員会を開催。平成26年度事業報告と27年度の事業計画案及び予算案について検討した。また、がっこう動物しんぶん共同発行1号の注文状況も確認し、2号の記事についても検討した。
6. 岡山県岡山市で開催の(公社)日本獣医師会学術学会年次大会において、

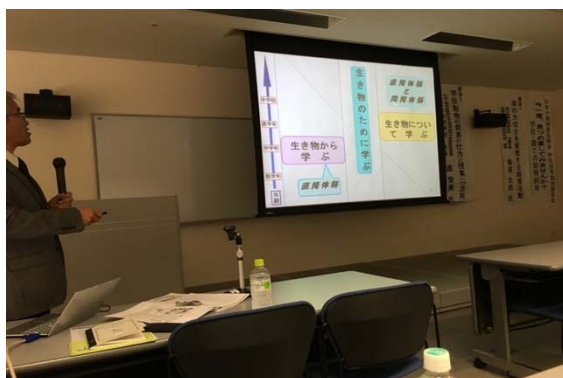


**2015 (平成 27) 年度**

事業部長 上田 嘉之 (副会長兼任)      委員長 處 愛美      副委員長 杉本 寿彦  
 委員 宮川 保      中島 直彦      大門 由美子

1. AP浜松町A室において合同委員会の中で当委員会を開催。宮川先生は事業部長から事業企画室長と代っての参加。27年度の事業計画として、がっこう動物新聞共同発行第4号の内容検討、来年2月の日獣学術学会年次大会(秋田)でのシンポジウム(市民公開講座)共催のこと、27年度の学校飼育動物講習会開催地を検討(滋賀県)した。また、今後の委員会は講習会会場の滋賀県、および日獣学術学会年次大会の秋田市において開催予定とする。今年は全国学校飼育動物研究大会が日小獣のセミナーと重なってしまったが、可能な会員は参加協力することとする。以上の項目について確認した。
2. 第17回全国学校飼育動物研究大会(東大一条ホール)に参加協力した。
3. 学校飼育動物講習会の開催。「今一度、見つめ直してみませんか?学校・園での動物飼育」と題して、大津市のピアザ淡海滋賀県立県民交流センター会議室に於いて開催した。国立教育政策所名誉所員で全国学校飼育動物研究会会長の鳩貝太郎先生と、当委員会委員長の處愛美先生が講師として講演。鳩貝先生は子ども達が命を実感するために動物と関わらせることにおいて、獣医師の関与が必須であることを強調された。教育者の立場からの鳩貝先生の説明や、啓蒙活動に邁進しておられる姿は、獣医師にとって励みとなるものだ

った。處先生は、現在の学校での動物飼育の現状から問題点を明らかにし、その課題をクリアするための手段や方法についてわかりやすく説明された。また、学校と獣医師との連携協力の方法についても解説された。



4. 滋賀県での講習会の前に委員会を開催した。滋賀県の実情から支援の方法を探り、がっこう動物新聞共同発行第3号の内容についての検討、また来年2月に秋田で開催される公社)日本獣医師会学術学会年次大会における参加協力を相談した。

5. 公社)日本獣医師会学術学会年次大会(秋田市)において、市民公開シンポジウム「学校教育と動物飼育」と題して、文科省初等中等教育局視学官の田村学先生と公社)日本獣医師会学校動物飼育支援事業検討委員会委員長の桑原保光先生が講演された。それに先立って開催された公開型拡大会議へも参加し、宮川先生がチモシーの種を配布するのを手伝った。

6. 同日秋田市において、委員会を開催し、平成27年度の事業、28年の計画や予算案について検討した。がっこう動物新聞の共同発行第3号についても最終の検討を行った。



2016(平成 28) 年度

事業部長 上田 嘉之（副会長兼任） 委員長 處 愛実 副委員長 杉本 寿彦  
委員 宮川 保 中島 直彦 大門 由美子

1. 本会会議室にて委員会開催。平成 28 年度事業計画について、がっこう動物新聞共同発行第 3 号注文状況について、がっこう動物新聞共同発行第 4 号の内容について、日本獣医師会学術学会年次大会（石川県）でのシンポジウムの共催について、平成 28 年度学校飼育動物講習会について、講演、指導用テキストの作成等について、第 18 回全国学校飼育動物研究大会の参加協力について検討された。
2. 第 18 回全国学校飼育動物研究大会（東大一条ホール）への参加協力
3. 福井県立図書館 多目的ホールにて委員会を開催。福井県における学校飼育動物飼育支援事業に対する具体的対応策について（意見交換）、がっこう動物新聞共同発行第 4 号について、日本獣医師会金沢大会での共催企画について、市民公開シンポジウムの開催協力について、学校動物飼育公開型拡大会議について、がっこう動物新聞の配布について、講習会の対応について検討された。
4. 福井県立図書館 多目的ホールで学校飼育動物講習会が次の内容で開催された。
  - 1) 「モルモットの臨床」講師：三輪恭嗣先生 東大付属動物医療センターエキゾチック動物診療責任者 三輪エキゾチック動物病院院長
  - 2) 「学校飼育動物の支援の在り方—愛知県の場合」  
講師：杉本寿彦先生 学校飼育動物対策委員会副委員長  
参加者：獣医師、動物看護師、動物園関係者等 37 名
5. 石川県金沢市にて委員会開催。平成 28 年度事業報告について、平成 29 年度事業計画案及び要望予算案について、がっこう動物新聞（共同発行第 3 号（第 12 号） 5 月発行第 4 号（第 13 号） 2 月発行）について検討された。
6. 公社）日本獣医師会学校動物飼育支援対策検討委員会公開型拡大会議に参加。
7. 公社）日本獣医師会学術大会年次大会（金沢市）で下記の内容で、市民公開シンポジウム「学校動物飼育支援の期待と課題」を日本獣医師会と共催した。

基調講演次期学習指導要領の改訂の方向性と学校動物飼育への期待 小野 賢志  
教員養成の立場から考える学校飼育動物教育 庭野 正和  
学校動物飼育のための支援事業 地久里 聡子  
15 年間の教室動物飼育の成果と課題 鷺見 辰美  
学年で行う動物飼育の実践事例 古家 新一 高橋 貴大
8. 中川美穂子先生の逝去にともない中川先生が主催されてきた casml を引き続き管理運営することとなった。



2017(平成 29) 年度

事業部長 長崎 淳一 (副会長兼任) 委員長 處 愛実 副委員長 杉本 寿彦  
 委員 宮川 保 中島 直彦 大門 由美子

1. 本会会議室にて委員会開催。平成 29 年度事業計画について、がっこう動物新聞共同発行第 5 号進捗状況について、第 6 号の内容にていて、平成 29 年度学校飼育動物講習会について検討された。
2. 第 19 回全国学校動物研究大会 (東大一条ホール) への参加協力
3. 新潟県 万代シルバーホテルに於いて、日小獣主催・学校飼育動物講習会が  
 「ウサギとモルモットの基礎と臨床」  
 講師：三輪恭嗣先生 東大付属動物医療センターエキゾチック動物診療責任者  
 三輪エキゾチック動物病院院長  
 参加者：獣医師 58名



4. 本会会議室で委員会開催。平成 29 年度事業報告について、平成 30 年度事業計画案及び要望予算案について、がっこう動物新聞（共同発行第 6 号）について検討した。
5. 公社）日本獣医師会学校動物飼育支援対策検討委員会公開型拡大会議に参加。
6. 公社）日本獣医師会学術大会年次大会（大分）で下記の内容で開催された 市民公開シンポジウム 「学習指導要領に則った効果的な動物飼育」に参加した。  
 基調講演 学習指導要領に則った効果的な動物飼育～道徳教育の視点から～ 吉本 恒幸  
 子供の成長過程における体験活動の教育的意義と現状 小林 道正
7. casml 動物飼育支援に関わる獣医師のメーリングリストの維持管理を行った。





## 2018(平成 30) 年度

事業部長 長崎 淳一（副会長兼任） 委員長 處 愛実 副委員長 杉本 寿彦  
委員 宮川 保 中島 直彦 大門 由美子

1. 本会会議室にて委員会開催。平成 30 年度事業計画について、がっこう動物新聞共同発行第 6 号注文進捗状況について、第 7 号の内容について、平成 30 年度学校飼育動物講習会について検討された。また、本会の学校飼育動物対策委員会の活動が日本獣医師会に理解され、日本獣医師会に設置された学校動物飼育支援検討会の委員に本会委員の大半がなっていること、本会の事業として始まった「がっこう動物新聞」が日本獣医師会から共同発行されるようになったことなどから、今後、学校飼育動物支援事業を全国的に展開していくには、日本獣医師会がイニシアチブをとっていくことが望ましいと意見がまとまり、本年度の委員会活動をもって休止することとなった。日小獣学校飼育動物事業のまとめについて検討した。

2. 第 20 回全国学校飼育動物研究大会（東大一条ホール）に参加協力した。

3. 本会会議室にて委員会開催。日小獣学校飼育動物事業のまとめについて検討した。40 周年記念誌の作成時に矢部先生がまとめられた原稿をベースに、まえがき、あとがき、まとめられた時点以降の事業を加筆することとする。でき上がった委員会事業のまとめは、次年度総会時に出席者に配布し、本会の HP に永久保存として掲載してもらうこととする。

4. 公社）日本獣医師会学校動物飼育支援対策検討委員会公開型拡大会議および、学術大会年次大会（神奈川）には、本会委員としては、個人的に参加協力することとする。





### 3. あとがきにかえて

2018年度をもって一般社団法人 日本小動物獣医師会 学校飼育動物支援対策委員会の、委員会としての活動を休止することにしました。

全国の獣医師による学校飼育動物の飼育支援活動を牽引してきた歴史を顧みると万感の思いはありますが、学校動物飼育支援事業が公益性の高い事業であり、公益社団法人 日本獣医師会に本会が行ってきた事業の大半を引き継いでいただける状況になりましたので、このような決断となりました。

学校飼育動物飼育支援活動を振り返るに当たって、諸先輩方の数々の業績がありますが、故中川美穂子先生を抜きには語れないのではないかと思います。

中川先生あの熱意がなかったら、私たちの現在の活動はなかったと思います。

思い起こせばいつも叱咤激励されながら活動していたように思います。

中川先生と最後に交わした言葉は、なくなる1ヶ月ほど前にお宅に伺った際に先生愛用の紙芝居をいただき、

「あなたにこれをあげるんだから、私のお葬式の時に読むのよ！」と言われ、

「はい！」と元気よく返事をしてしまったという思い出です。

中川先生に何か言われたら、何も考えずに思わず「はい！」と言ってしまう習性は最後まで出てしまいました。中川先生を失った今、何とか学校飼育動物の飼育支援活動を絶やさぬようにと歩んできました。これでいいのかなと迷っていると、どこからか、「何やってんのよ！」とお叱りの声が聞こえてきそうな気が今でもします。

今後の獣医師会の組織的な活動の方向は、法的な整備も含めて、獣医師が学校の環境と子供と動物の健康に責任を持って関わっていくシステムづくりへと向かっていくと考えられます。中川先生が進めてこられた子供の発達と動物、その中での獣医師の役割の重要性を啓発していく活動は、One Healthの大きな概念の中で実現していきたいと考えています。

日本小動物獣医師会としてはこれでこの活動から完全に撤退してしまうということではありません。会員の皆様の活動に必要な情報の提供やお手伝いは続けていきます。必要な時にはいつでもご連絡をください。よろしく願いいたします。

2019年 春

一般社団法人 日本小動物獣医師会  
学校飼育動物支援対策委員会 委員長 處愛美